

「旧約の信仰者たちの手本」の「族長時代」④ (11:20)

■ヘブル人への手紙の構成

二つの主要な区分	内容	箇所	警告
第一区分： 神学的理論を中心に (適用としての警告 も含む) ユダヤ教の三本柱と 御子との比較	テーマ	1:1~3	
	天使たちに優る御子	1:4~2:18	警告① 2:1~4
	モーセに優る御子	3:1~6	
	第二の警告	3:7~4:13	警告②
第二区分： 適用(御子の優位性を 理解した上での、信者 の歩み)	アロンに優る御子 (レビ族アロンの家系の祭司 職に優る御子) 注①	4:14~10:18	警告③ 5:11~6:20
	勧めのための2つの基盤と4 つの勧め、警告、励まし	10:19~39	警告④ 10:26~31
	旧約の信仰者たちの生き方を 手本とする	11:1~40	
	信仰を持ち続けることの勧め	12:1~29	警告⑤ 12:25~29
	まとめとしての勧め	13:1~25	

注① レビ族アロンの家系の祭司職 ⇒ 以下、「レビ系祭司職」

■「旧約の信仰者たちを手本とする」11章の構成

細目	内容	箇所
信仰の忍耐	信仰の特徴	1節
	このような生き方が可能であることを実証した人々がいる	2
	目に見えないものを確信する事例=天地創造	3
族長時代以前	アベル	4
	エノク	5~6
	ノア	7
族長たち	アブラハム	8~19
	イサク	20
	ヤコフ	21
荒野の旅	ヨセフ	22
	モーセの両親	23
	モーセ	24~28
	イスラエル民族の人々	29~30
試練の中で	ラハブ	31
	イスラエル国史に見る信仰(士師たち・王たち・預言者たち)	32~34
	信仰は死を乗り越える	35~38
信仰の勝利		39~40

旧約の信仰者たち(時系列で)

■ 前回の内容 「旧約の信仰者たちの手本」の「族長時代」③ (11:17~19)

手本となる生き方	内容	箇所
神の召命を受けて 生まれ故郷を離れる	(使徒 7:2~5、創 11:31~12:7)	8
寄留者となる	(創 13:18、22:19、23:4、24:67、25:27)	9
	(創 24:7)	10
不可能でも子が生まれると いう約束を信じる	(創 17章、ロマ 4:17~22、創 18:1~15)	11~12
目の前の土地ではなく、より 優る国を求める	【イサク、ヤコブも】	13~16
イサクを捧げることを通して、 復活信仰を表明する	(創 22:1~18)	17~19

イサクを捧げることを通して、復活信仰を表明する (11:17~19)

ここでの信仰の内容は、「復活を信じる」である。

まず創世記 22:1~18 からイサク奉獻の出来事をたどり、その次にヘブル 11:17~19、三番目にアブラハムが復活信仰に導かれた経緯を考えた。

イサク奉獻の出来事 (創世記 22:1~18)

1. 創世記 22:1~2 神の命令

(1) 神は、アブラハムを試練に合わせられた。神は彼に、「アブラハムよ」と呼びかけられると、彼は、「はい。ここにあります」と答えた。

① 「試練に合わせられた」:「試(こころ)みた」(Ⅱ歴 32:31)、その目的は「その人の心にあることをことごとく知るため(=明らかにするため)」

② 神はアブラハムを、試みた、試(ため)した、テストした、証明した。→ 神はアブラハムを試して、彼の信仰を明らかにした、証明した。

(2) 神は仰せられた。「今、取れ。あなたの子、あなたのひとり子、あなたの愛する(子)、イサクを。そして、行け、あなた自身のためにモリヤの地へ。そして、彼をささげよ、全焼のいけにえとして、一つの山の上で、そこはわたしがあなたに示すであろう。」

① 行け、あなた自身のために (英語では、go for yourself) : 何かから離れて出発すること、そしてそれはその人のため、祝福のためである意味を含む。

② 創世記は、アブラハムへの神の現れを、7回記す。ここは、7回目。

③ 1回目は 12:1 「行け、あなた自身のために、from ~ から【あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家】、to ~ へ【地】、そこはわたしがあなたに見せるであろう」

- (3) ユダヤ教ラビの伝承：神とアブラハムのやりとり
- ① 神「あなたの子」、アブラハム「どちらですか。私には2人の子がおります。」
 - ② 神「あなたのひとり子」、ア「どちらもその母親にとってはひとり子です。」
 - ③ 神「あなたの愛する子」、ア「私はどちらをも愛しています」
 - ④ 神「イサク」
- (4) しかし、この文脈では「ひとり子」とは、「母親にとってのひとり子」ではない。他の子とは区別される、特別な何かをもつ子である。イサクは・・・
- ① アブラハムにとって、神の約束によって、妻サラが生んだひとり子である。
 - ② アブラハム契約をアブラハムから継承する、ただ一人の子である。
- (5) イエスが神の「ひとり子」(ヨハ 3:16) と呼ばれるのも、特別なお方であることを意味する。
- ① 「神の子たち」
 - 神がお造りになった天使たち
 - 信仰によって神の子とされた(養子とされた)信者たち
 - ② イエスは、天使たちとも信者たちとも区別される、特別なお方である。
 - ③ イエスは、神の永遠の御子である。三位一体の神の第二位格のお方である。
2. 創世記 22:3~5 出発
- (1) 3節 アブラハムの従順な行動7つ
- ① 翌朝早く起きた
 - ② ろばに鞍をつけた
 - ③ ふたりの若い者を同行させた(伝承では、イシュマエルとエリエゼル)
 - ④ 息子イサクを連れた
 - ⑤ 全焼のいけにえのためのたきぎを割った
 - ⑥ 立ち上がった
 - ⑦ 神がお告げになった場所へ出かけて行った
- (2) 4節 到着 3日の旅路(距離にして80~100km)
- (3) 5節 若い者たちに待機指示「私とこどもとは、・・・戻って来る」=復活の確信
3. 創世記 22:6~10 イサクを捧げる
- (1) 6節 アブラハムとイサク、モリヤの山を登る。イサクはたきぎを背負う。アブラハムは火と刀を持つ。
- (2) 7~8節 アブラハムとイサクの会話
- ① 「神ご自身が全焼のいけにえの羊を備えてくださるのだ」ヘブル語原文は二通りの訳が可能
 - 神が、ご自身のために、全焼のいけにえの羊を、備えてくださるだろう
 - 神が、ご自身を、全焼のいけにえの羊として、備えてくださるだろう
 - ② 二通りの訳のうち、2番目は、イエスの十字架において実現した。
- (3) 9~10節 イサクを捧げる
- ① 9節 神が告げられた場所に来た
 - ② アブラハムは、そこに祭壇を築いた(このとき、アブラハム130~137歳、イサク30~37歳、2036~2029BC。この場所にソロモンの神殿着工966BC。およそ千年後。)
 - ③ 祭壇の上にたきぎを並べた

- ④ アブラハムはイサクを縛った
- ⑤ アブラハムは、縛ったイサクを、祭壇の上のたきぎの上に置いた（ここまで、イサクは何の抵抗もしていない。体力では十分抵抗できたはずだが、イサクは、完全に父を信頼し、身を任せた）
- ⑥ 10節 アブラハムは手を伸ばし、刀を取って、自分の子をほふろうとした（伝承では、刀はイサクの喉元に当てられた）
4. 創世記 22:11~14 神によって代わりのいけにえが用意される
- (1) 11~12節 主の使いがアブラハムを止める
- ① その理由：今、わたしは、あなたが神を恐れることがよくわかった。
- ② 神はこのことをすでに知っておられたが、今それは体験的に明らかとなった。体験的というのは、次に続く説明・・・「あなたが、自分の子、自分のひとり子さえ惜しまず、わたしにささげた」
- ③ 神を恐れる＝神を信じる、神に信頼する。信者がその信仰をもっていることを外部に証明するのは、体験的な行いによる。ヤコブ 2:22~24
- (2) 13節 雄羊が角をやぶにひっかけていた
- ① アブラハムは行って、その雄羊を取り、それを自分の子の代わりに、全焼のいけにえとしてささげた。→ アブラハムは、その雄羊が、イサクの身代わりであることを理解していた。
- ② 主の山には備えがある・・・主の山とは、モリヤの山、シオン（Ⅱサム 5:7、Ⅰ列 8:1）の山（Ⅰ歴 21:18~22:5）、神殿の山（Ⅱ歴 3:1）。ここで、イエスによる贖いがなされることになる。
5. 創世記 22:15~18 アブラハム契約の確認（5回目・最終回）
- ① 17節 子孫の約束 土地の約束
- ② 18節 祝福の約束 「あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受ける」→ ガラ 3:16 イエス・キリストを指す

ヘブル 11章 17~19節

1. 17節 a 信仰によって、アブラハムは、試みを受けたとき、イサクを捧げた。
- (1) 「試みを受けたとき、イサクを捧げた」：聖書原文のギリシア語文法では、神の命令を受けている間に、アブラハムはためらいなく、直ちにその命令に従って行動に移りはじめた、という情景が表現されている。
- (2) つまり、アブラハムは、神の命令について、これはどういうことかと考えをめぐらすようなことは、わずかな時間すらも、していない。
2. 17節 b 彼は、約束を与えられていたが、自分のひとり子を捧げた。
- (1) この訳では、「約束を与えられていたにもかかわらず」というニュアンスになるが、原文ではそうではない。
- (2) イサクについて、説明する文になっている。直訳すると「そして、そのひとり子を捧げた。その子について、彼は約束を受けていた。」
- (3) どういう約束だったのか、続く 18節で説明される。
3. 18節 その者について（神により）次のように言われていた、「イサクの中に、あなたの子孫が呼び出される」
- (1) アブラハムが 17節の命令を受けた時点では、まだイサクは独身。子を持たないま

ま死ぬなら、アブラハム契約を受けるべき子孫は絶えることになる。

- (2) しかし、アブラハムは直ちに従った。なぜアブラハムは、ためらいなく直ちに神の命令に従って、イサクを連れてモリヤの地へ行くと決断できたのか？ その答えは、19節で語られる。
4. 19節 a 彼は、神には人を死者の中からよみがえらせることもできる、と考えた。
- (1) 原文をその語順のとおりに訳すと、「(神の命令を聴きながら彼は) 考えていた、死者の中からでもよみがえらせることは、可能である、神には。」
- (2) アブラハムの信仰が依って立つところは、2つ。
- ① 創造主なる神の力
- ② 神の真実、すなわち神が約束したことは必ず成就するということ
- (3) イサクが子をもうける前に死ぬなら、神は約束を成就するために、イサクをよみがえらせて、子をもうけさせる義務を負うことになる。
5. 復活についてのイエスの教え (マタイ 22:23~33)
- (1) 復活はないと言っているサドカイ派の指導者たちに対して、「そんな思い違いをしているのは、聖書も神の力も知らないからだ」と指摘したうえで、出3:6、「わたしは、アブラハムの神、イサクの神、そしてヤコブの神である」を引用して、復活があることを論証した。
- (2) この神の名は、「アブラハムが信じた神、イサクが信じた神、そしてヤコブが信じた神」という意味ではない。
- (3) 神がアブラハムと契約されたこと、その契約はイサクに、そしてヤコブに継承されたことを指している。
- (4) ひと言でいえば、「アブラハム契約の神」という意味。
- (5) アブラハム契約において、アブラハム、イサク、ヤコブは、神からカナンの地を領有するという約束を受けていた。彼らは、その約束をまだ受け取らないうちに死んだ。約束を守る神であるから、神はアブラハム、イサク、ヤコブをよみがえらせて、その約束のとおりになれるはずである。復活は当然起きるべきことである。

■ 本日の内容 「旧約の信仰者たちの手本」の「族長時代」④ (11:20)

信仰によって、イサクは未来のことについて、ヤコブとエサウを祝福しました (ヘブル 11:20)

1. エサウとヤコブの誕生 (創 25:19~26)
- (1) 20節 イサク (40歳)、リベカと結婚。
- (2) 21節 結婚から20年近くになっても、子どもができない。イサクは妻のために主に祈った。主は、その祈りに答えてくださり、リベカはみごもった。
- (3) 22節 胎内で複数の胎児がぶつかり合う。リベカは、「いったい、どうなるのでしょう、私は」=母体の命に危険を感じた→リベカも主に祈った
- (4) 23節 主の答え
- ① 「二つの国」「二つの国民」=エサウからエドム民族、ヤコブからイスラエル民族
- ② 「一つの国民は他の国民より強く、兄は弟に仕える」=イスラエルはエドムよ

りも強くなる。エドムはイスラエルに隷属する。

(5) 24~26節 双子の誕生

- ① エサウ「毛深い」、エサウから出た民族の名はエドム「赤い」エサウの毛の色
- ② ヤコブ「かかと[△]アケブをつかむ者」、二義的には「押しのける者」という意味もあるが、出産時の命名としては単に「かかとをつかんでいた」という事実を表現しただけで、良くも悪くもない中立的な命名である。→悪い意味をあてたのは、エサウが怒っての発言（創 27:36）。
- ③ 双子の誕生のとき、イサクは 60 歳

2. エサウは、ヤコブに長子の権利を売った（創 25:27~34）

(1) 27節 エサウとヤコブの成長

- ① エサウは「巧みな猟師」。ニムロデもそのように評された（創 10:8~12）。聖書の文脈上、この評価は良い意味ではない。
- ② エサウは「野の人」。家業である牧畜には従事しなかった。
- ③ ①と②から見えてくるエサウの人物像は、狡猾な人物。そして、家族やアブラハム契約を大切にす気持ちはなく、長子でありながら、家族の輪から外に出ている。
- ④ ヤコブは「穏やかな人」。この訳は適切ではない。[△]タム=完全な、いつも背筋が伸びた、まっすぐに立った、完成した、非の打ち所がない。
 - ノアもそのように評された（創 6:9、「全き人」、[△]タミーム=完全な、タムと同じく、[△]タマム「完成する」を語源とする）
 - ヨブも（ヨブ 1:8「潔白で[△]タム」）
 - 詩 18:25「全き者には、全くあられ」人間の「全き者」とは、全く罪を犯さない人という意味ではない。その人の心が神の方をきちんと向いているかどうか、である。
- ⑤ ヤコブは「天幕に住んでいた」。一族の輪の中にあって、家業である牧畜に従事した。祖父アブラハム、父イサクと同じ仕事をした。羊飼いの仕事は、弱虫いくじなしの仕事ではない（創 31:38~40、Iサム 17:34~35）。
- ⑥ 神の評価「わたしは、ヤコブを愛した。わたしは、エサウを憎んだ」（マラキ 1:2~3）

(2) 28節 両親と双子の関係

(3) 29~34節 ヤコブはエサウから長子の権利を買った

- ① 30節 この訳は上品すぎる。原文のニュアンスは、粗野な感じ。「おい、赤いの、その赤いものを俺によこせ、一気にがぶ飲みさせろ」
 - ここにはエサウの生き方が表れている。神のこと、永遠のことなど関心はなく、目先のその時だけを生きている人生。
 - ヘブル人への手紙の著者は、エサウを評して「俗悪な者」（ヘブル 12:16）と評している。
- ② 31節 長子の権利。財産分割で他の兄弟の 2 倍（申 21:17）、霊的な富（I歴 5:1~2）、アブラハム契約の線上にあるのでメシアを出す家系になること、約束の地を所有すること。
 - ヨセフは自分が兄たちの上に立つという預言的な夢をみた。その預言は成就して実際に長子としての霊的な富を受けることになるが、その過程

では、ヨセフは奴隷として売られ、牢獄に入るといふ苦難の時を経た。その中で、ヨセフは信仰の忍耐をした。

- ③ 32 節 長子の権利の中心は、霊的な富。しかし、エサウは、霊的な富を保持することに關心を払うことがなかった。
 - ④ 33 節 エサウはヤコブに長子の権利を売った
 - ⑤ 34 節 「エサウは、食べたり、飲んだりして、立ち去った」原文は4つのステップ：食べた、飲んだ、立ち上がった、そして去った。☐ヤラク「離れる、行く、自分の道に行く」
 - ⑥ 34 節 「こうして、エサウは長子の権利を軽蔑したのである」
 - 単に売っただけでなく、「軽蔑した」=☐バザー「価値のないものとして扱った」
3. エサウの妻たち (創 26 : 34~35)
- (1) エサウ 40 歳で、ヘテ人の妻を二人娶る→アブラハム契約を受け取るという気持ちが全くない。イサクは 100 歳。
4. イサクによるヤコブとエサウの祝福 (創 27 : 1~28 : 9)
- (1) イサクの意向 (27 : 1~4)
 - ① 創世記の他の箇所から推定すると、このときイサク 137 歳、エサウとヤコブは 77 歳。イサクが実際に死去したのは、180 歳。しかし、視力が衰えてほとんど見えなくなり、死期が近いと感じた。
 - ② 4 節 これは、25 : 23 でリベカに啓示された神のみこころとは違う。
 - ③ アブラハム契約を継承する子への祝福を、「私の好きなおいしい料理」と引き換えに与える？ エサウが食べ物で長子の権利を売った軽率さに近い態度を感じるが、食べ物と飲み物を受け取って祝福を与える儀式的習わしが古代にあったことも事実。
 - (2) リベカによる偽計 (27 : 5~17)
 - (3) ヤコブによる騙しの実行とイサクによるヤコブへの祝福 (27 : 18~29)
 - ① 18 節 ☐私は、エサウ、あなたの長子です。☐では、「私」は2種類。名前を強調するときを使う「私」と、資格や間柄を強調するときを使う「私」。ここは後者。
 - ② 24 節 ☐私です。ここは、前者。
 - ③ 27~29 節 祝福 29 節の最後「おまえをのろう者はのろわれ、おまえを祝福する者は祝福されるように」=アブラハム契約での族長への祝福 (12 : 3)
 - (4) イサクによるエサウへの祝福 (27 : 30~40)
 - ① 33 節 「イサクは激しく身震いして」・・・これは怒りではなく、恐れ。神のみこころを再認識し、自分が神のみこころに反していたことを思い知って、激しい恐れを覚えた。
 - ② 33 節 「それゆえ、彼は祝福されよう」・・・神のみこころを思い知って、ヤコブを祝福したことは撤回できないことであると悟った。
 - ③ 34 節 原文は3段階、「エサウは泣き叫んだ、大声で泣き叫んだ、苦々しい泣き言を激しく叫んだ」。彼は、霊的祝福はどうでもよかった。物質的祝福、さらに軍事的優越性を切望していた。
 - ④ 35 節 イサクの発言「おまえの祝福を横取りしてしまった」これは誤り。

すでに長子の権利はヤコブに帰属していた。

- ⑤ 36節 エサウの発言「彼の名がヤコブというのも、このためか」 「ヤコブ」の本来の意味ではなく、二義的な意味をあてつけた。
 - ⑥ 「二度までも私を押しつけてしまって。私の長子の権利を奪い取り、今また、私の祝福を奪い取ってしまった。」・・・一度目はエサウがヤコブに長子の権利を売ったことを指している。「奪い取った」というのは、うそである。
 - ⑦ 37節 イサクの応答 撤回できない。当時の習慣では、父親がいったん口にした遺言は撤回できない。
 - ⑧ 38節 エサウは再びイサクに祝福を求めた。そして、声をあげて、泣いた
 - ⑨ 39~40節 イサクによるエサウへの祝福
 - 39節 「おまえの住む所では、地は肥えることなく、上から天の露もない」・・・原文では、「肥沃な地から離れておまえは住むだろう。天の露を受ける地から離れて。」ヤコブに与えた祝福(28節)の反対側の内容。エサウは約束の地を相続しない。エサウは約束の地の外側でしか住めない。
 - 40節 エサウから出る民族「エドム」についての3つの事柄
 - 武力によって生きる(民20:14~21)
 - イスラエルに従属する(Iサム14:47、IIサム8:14)
 - そのくびきを解き捨てる(II歴21:8~10、II列16:6、II歴28:16~17)
 - ヘロデ大王
5. イサクからヤコブへのアブラハム契約の継承(創27:41~28:4)
- (1) エサウの殺意とリベカの対応(27:41~46)
 - (2) ヤコブへの命令(28:1~2)
 - (3) イサクからヤコブへのアブラハム契約の継承(28:3~4)
 - ① 全能の神がおまえを祝福してくださる
 - ② 多くの子どもを与えてくださる
 - ③ おまえを増やさせてくださる
 - ④ おまえが多くの民の集いとなる
 - ⑤ 神がアブラハムの祝福を、おまえと、おまえと共にいるおまえの子孫とに、授ける
 - ⑥ 神がアブラハムに下さった地、おまえがいま寄留しているこの地を継がせてくださる
 - (4) ここに至って、ついに、イサクは神のみこころと同じになった。イサクは神の選びを認めた。